

観光学概論シラバス

(1年生対象)

(公開講座)

- 授業の展開方法・講義
- 単位数 ・ 2単位 (前後期合わせて4単位)
- 開設時期 ・ 観光学概論Ⅰ (前期)・観光学概論Ⅱ (後期)
- 担当教員 ・ 高橋 敏 明
- 対象学生 ・ 1年生・社会人

観光学概論の目的と出口

(目的) 観光の原点を体得すると共に Global な視座の獲得により、世界の平和と和平に貢献する人材の輩出

(出口) まずは観光客の記憶に残る Guide 足れ。

— 単位認定 —

- 1 旅行観光コースの選択者は必修
- 2 60点未満は不可
(60~69点可・70~79点良・80~89点優・90点以上は学長表彰にノミネート)
- 3 採点内容
 - ① 出席 . . . 20点
 - ② Report (講義の感想) . . . 20点
 - ③ 前期定期試験 (Report・授業外の提出) . . . 20点
 - ④ 後期定期試験には2泊3日の小樽パッケージツアー計画書の策定 . . . 30点

— 講義概要 —

(前期) 4月~8月

- 1 観光の原点とはまだ見ぬ土地への憧憬。そして冒険。冒険には命が賭かっている。観光とは云えない黎明期の人類の冒険。
 - ① 日本人の成立前夜
 - イ) マンモスハンター
 - ロ) 稲の道
 - ハ) 漂流の民
 - ニ) その他
 - ② 弥生時代以降の日本人
 - イ) 日本と日本人の成立

- ロ) 日本人の言語の起源
- ハ) 渡来人がもたらした政治制度と文化
- 二) 遣唐使・遣隋使は国家プロジェクトであった。
- ホ) 平安末期まで津軽は日本でなかった。
- ヘ) 明治以降、取り残されたアイヌと琉球人。そして部落民

- ③ モンゴリアンのチリ南端までの到達時間
- ④ エジプトのピラミッド・モアイ像は如何にして造られたのか。
- ⑤ 縄文時代までの労働時間は一日4時間以下
- ⑥ イヌイットは何故、極北に住むのか。
- ⑦ コロンブスの発見以前に知られていたアメリカ大陸。知らなかったのはヨーロッパ人
- ⑧ 20もある世界の文明。文明と文化
- ⑨ アフリカに多い、知られざる文明

2 現在の観光からは冒険が消え去り、物見遊山。それで良いではないか。それでもまだ見ぬ土地への憧憬は存在する。

- ① 冒険が消えなければ観光は成立しない。
- ② 観光の始まり
 - イ) 有史以前にも Event は在った。
 - ロ) 古代オリンピックにも近隣から見物客が…。
 - ハ) 民族が移動する動機
- ③ 鎖国の功罪
- ④ 参勤交代は観光施設の整備に貢献

3 観光とは世界の風土を知り、そこに住む人間を知ることだ。そしてそこから何を感得できるかだ。

- ① 幕末から明治、そして敗戦までの洋行・留学
- ② 1ドル360円下の観光
- ③ 日本の高度成長とプラザ合意
- ④ An・Non 族の出現。安価な海外パッキングツアーによって…。
- ⑤ 海外に定住する日本人

4 観光なくして Global は発生しない。世界・地球を体感できない。異文化を知ることは自分を知ることだ。

- ① 日本国内にも異文化は多様に存在する。
- ② 方言がもつ Identity
- ③ 異文化から自らを照射する回路

- 5 国際化とは何か。それは人種・国籍・文化の違いを互いに認め合い、尊重できるかだ。日本人である自分を知らなくて・・・。
- ① 未だ国際化になじめない日本人が・・・
 - ② 互いを認め合うには人間に対する興味と関心がなければ・・・。
 - ③ 日本人とは何か。
 - ④ 個から普遍を獲得する道筋
- 6 一冊の本、一本の Video からでも観光は可能だ。想像力なくして、どうして相手を知れようか。想像力の基軸は記憶に残る体験。観光学とはこの体験を経験に導く入り口でもある。
- ① 体験と経験の違い。
 - ② 想像力は鍛えなければ無に帰す。
 - ③ 観光資源の中心は人間である。
 - ④ 人間とは何か・・・。
- 7 観光の発展は人類の平和と和平の象徴
- ① 平和でなければ観光は成立しない。
 - ② 第二次大戦後、戦乱未発生国家はスイスと日本
 - ③ 平和は与えられる安心ではなく創りあげるもの
 - ④ 日本人の平和の概念・・・日本国憲法に照らして
 - ⑤ 和平とは戦乱を収め、平和を築き上げる人間の営み
 - ⑥ 戦乱・戦争勃発の主因
 - ⑦ 国際政治と切り離せない今日の平和と和平
 - ⑧ 個人が何を実現できるのか。極めて困難。・・・しかし・・・。
- 8 観光の発端は皮肉にも征服と侵略。例外もあるが・・・。
- ① 古代ローマ帝国の膨張。ローマ人の世界観
 - ② ジングスハーンの世界征服計画
 - ③ シルクロードの確立・・・マルコポーロの東方見聞録（ジパングの誕生）
 - ④ 大英帝国の世界支配（植民地支配）
 - ⑤ 株式会社の誕生・・・支配の先兵となったのが布教と文化人類学
 - ⑥ ポルトガル・スペインと決定的に異なる支配思想
 - ⑦ 屈しないトルコの人達
 - ⑧ ナポレオンの挫折
 - ⑨ ヒトラーの野望
 - ⑩ 大日本帝国の東アジア支配思想
 - ⑪ ヨーロッパの世界支配の終焉
 - ⑫ 今日のアメリカの世界戦略

9 征服と侵略の後には交易が観光の呼び水となる。交易がもたらした観光の基盤整備とは・・・。道路はいかにして造られたのか。

- ① 征服者はこぞって道路を造り、通信網（駅停・飛脚）を整備した。
- ② 支配力が弱まると造った道路が仇となる。
- ③ 万里の長城建設の主因
- ④ 観光を成立させる諸要件
 - イ) 道路…交通手段
 - ロ) 宿泊施設
 - ハ) 安全
 - ニ) 医療施設
 - ホ) 両替商（銀行）

10 異文化を知る上で欠かせないのが食べ物。何と云っても食べ物が隣人と仲良くなるコツ

- ① 宗教によって異なる食習慣
- ② 食べることにこだわりのない日本人であっても犬は食べない。
- ③ 土地の人が何を食べているかでその風土が分かる。
- ④ 風土はその土地に住む人達の世界観に繋がる。

11 観光学の醍醐味

- ① 発見する喜び
- ② 学問として認知されていないのが今日の観光
- ③ 学問としての認知
 - イ) 仮説
 - ロ) 仮説を正当する実証力
 - ハ) そして体系化
- ④ 本講座の挑戦は社会からの学問としての認知
- ⑤ 観光学とは人間が人間らしく生きる総合学である。
- ⑥ 体得した網羅万象を観抜き、人間の欲求（真実）に光をあてるのが観光学の力

12 日本における観光の草分け

- ① 安倍比羅夫と坂上田村磨の蝦夷征伐
- ② 熊野詣
- ③ 熱田（伊勢）神宮参り（おかげ参り）
- ④ 四国の巡礼
- ⑤ 異彩を放つ出雲大社
- ⑥ 今も残る縄文の祭り…諏訪神社
- ⑦ その他

1 3 日本の観光マップの始まり

- ① 葛飾北斎…『富嶽三十六景』
- ② 安藤広重…『東海道五十三次』
- ③ 十辺舎一九…『東海道中膝栗毛』
- ④ 滝澤馬琴…『南総里見八犬伝』
- ⑤ その他

1 4 全国各地に潜む民俗学とその源流。日本の田舎を知らなくては・・・

- ① 柳田国男の登場
- ② 柳田国男が確立するまで日本に民俗学は存在しなかった。
- ③ 何故、彼は縄文を捨て弥生から始めたのか。
- ④ 消えてしまった山の人
- ⑤ 縄文時代が形成した日本の基層文化。それは今も続く…。
- ⑥ 日本に残る田舎は文化の宝庫

1 5 これからの観光の目玉。やはり冒険がつかまとう。

- ① 極地体験…植村直巳を忘れられない
 - イ) 南極ツアー
 - ロ) 北極圏ツアー
 - ハ) ヒマラヤ山登りツアー
 - ニ) アマゾンツアー
 - ホ) その他
- ② サバイバルツアー
 - イ) 砂漠にたった独りで…
 - ロ) 路上泊のあるインド探訪ツアー
- ③ 窮極は宇宙へ

(後期) 9月～2月

1 6 北海道観光のこれからの売りとは・・・。

- ① もちろん自然。そして食べ物。しかしそれだけでは…。
- ② 各地に眠る産業遺産
- ③ 道産子が忘れてしまった北海道の魅力とは…
- ④ 自然を大切にできない道産子。何処へ行ってもゴミの山
- ⑤ 道産子のルーツ
- ⑥ 何も存在しない草原にも観光資源が眠っている。
- ⑦ 明治以降の近代の弊害が集積されている北海道
- ⑧ 道産子を売れなくては…

1 7 小樽観光で忘れ去られたあれこれは・・・。

- ① 京都文化が育んだ小樽の伝統・習慣・人情
- ② 小樽人とは…
- ③ 北前船が運んできた富
- ④ 生態系の境目にある天狗山・積丹半島…栗林の北限地
- ⑤ 海で遊ぶ
- ⑥ 縄文遺跡銀座…モースが発見した手宮貝塚
- ⑦ 明治・大正・昭和の暮らし
- ⑧ 小樽を知れば北海道開拓の歴史の八割方が分かる。

1 8 ・ 1 9 埋もれてしまった小樽の発掘 (Field Work)

- ① 今日の小樽を創った巷の人々に光をあてる。
- ② 寺・神社の由来と祭事
- ③ 映画に登場する小樽 (※ 講座内講師 渡辺 大助：本学専任教員)
- ④ その他

2 0 ・ 2 1 パックツアーを売り出す側から観光を志す者への留意点

※講座内講師 吉田 寛：本学専任教員：元 (株) 札幌全日空ホテル顧問

- ① 通過型観光地からの脱却にむけて。
- ② 滞在型ツアーを売り出すための要件
- ③ 小樽人が小樽の魅力を再認識
- ④ その他

2 2 ・ 2 3 総合・国内旅行業務取扱管理者等の国家資格を目指して

※講座内講師：吉田 寛・岡本菜々 (FMおたる)

2 4 隣国を知る大切さ (1) 韓 国 (※講座内講師 安敬珍・小樽商科大学1年生・
予定)

2 5 隣国を知る大切さ (2) 何故かキューバ (※ 講座内講師：梶原信幸・HABANA)

2 6 隣国を知る大切さ (3) 台 湾

2 7 隣国を知る大切さ (4) 中 国 (※講座内講師 岡本菜々)

2 8 隣国を知る大切さ (5) ロシア

2 9 観光客の記憶に残る Guide 足れ。

- ① Hospitality
- ② 何でもこなさなければ…
- ③ 客の記憶に残るには感動が必要
- ④ 感動がなければリピーターは消滅する。
- ⑤ その他

3 0 観光学とは観光の原点の模索と検証。そしてまだ見ぬ土地への憧憬の対象化と体系化。おさまりきれない人間の欲求と向き合いつつ、世界の平和と和平実現に貢献してみなければならぬ。

- ① 観光の発展とは平和の持続と和平実現の草の根運動が欠かせない。
- ② 政治とは権力である。
- ③ 国際政治と向き合う時の腹の括り方

以 上